森川

二百十一冊ノ内

畧譜

風

内閣文庫
和書 類
三六〇八八 號
二二 冊
王六函 一一 架
七九一〇

398

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211(197)
函號 156 17

国立公文書館
National Archives of Japan

源姓
森川

高貮千貮百石貮斗三升
家紋　九曜
平ノ四ツ目結

御定紀十四代　森川[illegible]郎

記録御用所

一　高[illegible]

男

一　[illegible]

森川金太郎

[illegible]

398

秘閣圖書之章

日本政府圖書

源姓
森川

高貳千貳百石

家紋

佐々木三郎定綱十四代孫森川帯刀

氏榮 長男

森川金右衛門

氏俊

記録御用所

東照宮久能山ニ遷し奉るに一類にても
と世宗乃所置よりて相續和叙父其外
苗字ニ於ても相續すへきの命ありとて家門と
称せしむ元和八年なりし○同三年
十二月山形城ニ軍と云ふよく勲功あり○元和
二年○婦川加増乃所領○三万石合九萬鐵
乃所領ニ合同城主となる○甲州都留郡へ
御こし所領郡内ニ[illegible]としてなれは
給ふを今に至り○長際合戦之所柵際ニよく

相續となるよし見えし○元和七年迄
別ニ伊豆国沼津乃所領の人にて付れ
領乃内にて駿河国此所乃采地を賜ひ
○元和三年○小牧乃役合戦ニて
尾州長久手とやら○小笠原兵部
別に[illegible]○元和二年戊年十二月
於日二十万石武州東京を領し○所蔵
六十石十八武蔵乃本多たし[illegible]
○慶長二十年七月[illegible]武州
家臣[illegible]

御使役御父御物頭ニ被定ニ定之男

森川右衛門ニ寄候

此家孫同紀之段の代まで相見へ申候

三ノ宮ニて家断絶

氏信　森川今右衛門　庄九郎

文禄元申年初入の若君長二歳ニて七月

廿日家督の間ニ関ヶ原乃後より

台徳院殿より仕奉の同七寅年二月廿八日

東照宮乃命によりて下総乃地ニ於て給

高の石は七千石ニて将軍宣下御参内

乃時隨身鹿苑院の大坂両御陣供奉の

元和九亥年より

大猷院殿より（御上洛供奉）奉仕の寛永三寅年九月

上洛乃時隨身出張乃後より同十二年

年与力二十騎根来同心百人を預けらる

の正保二酉年十月廿八日死六十七歳

同所に葬らる

勤仕中ゟ武公え定而相勤

長門庄九郎

氏之

慶長十一丙午

台徳院殿へ初見の元和九年御上洛の時

父ニ同しく供奉の寛永三年大猷院殿奉仕正保二酉年十月

廿八日家督の同四亥年二百石の五十俵を加

つとめてへの明暦三酉年十八日死去

十六歳同年…年四十五歳

氏紀

長門今右衛門　弟四　助右衛門

正保四亥年

大猷院殿へ拝謁の明暦三ッ年十二月

廿五日御継目付千助御継目へ大…

紀の家継二三丙年七月十一日ゟ書院番の

定ん…三卯年四月日光供奉の同九

年…遺跡…同

年辰八月…延宝二卯年…月十二日

二月廿三日…

与力六騎同心四十人預り置候○同年中
十二月九日御持筒頭被仰付布衣○元和二
戊年四月廿一日加増被成下○貞享三
寅年十二月十六日死去年六十五同年七
月断絶ス

氏親　森川半助

明暦三酉年十二月元服被召出御目見
○元禄二巳年五月十四日死去年三十三歳

子家絶

氏房　森川金右衛門　右近　庄九郎

寛文三卯年御目見○天和二戌八年
九月廿八日御書院番○貞享四卯年
七月十二日御徒頭被仰付氏房へ五百石
分知○元禄三午年桐之間番○同
年病気○同八申年御書院番○
同七戌年駿府在番之節久能山御宮

北條陸奥守組○同十三寅年六月本所
火事場目付○宝永元申年六月十
三日死四十九歳同寺ニ葬之

氏長

森川今右衛門　大近　太郎

宝永元申年八月廿九日家督相續三百俵
氏治ハ三男ニ而知行○同三戌年七月廿日
御小性組○享保十一午年三月小金原ニ而
精勤ニ付○同年十月廿二日御書院番
同年十二月御番入○享保十九寅年十二月
廿九日御番御免組御減ニ付御廊下番ニ
被仰付○延享二丑年三月十二日御役
○宝暦十辰年二月廿日死七十一歳
同寺ニ葬之

氏孝

森川八九郎　大近

元文三年午七月廿二日初見○延享元子
三月十六日御番相續○寛延三午年十二月

死二十六歳同日[illegible]に葬る

民寿　　　森川金右衛門　嫡子　次助

寛延三年午八月三日家督[illegible]和田

宝暦年[illegible]月十九日[illegible]小性組

高二百石部屋

源姓　高[illegible]石

森川

森川金右衛門民房次男

[illegible]

民治　　森川重枕　金之助

宝永元申年八月廿五日家督三百石の享

保十三年二月十日死四十九歳当所宗

悟寺に葬

民英

実 森川八左衛門氏与三男
森川八之丞 金吾 太郎

享保十三申年六月廿六日〔?〕家
督○延享三寅年六月十六日初見○宝
暦五亥年八月十八日大御番○安永八亥年
十月十二日死 年五十九歳 京都ニ而葬

義比

初 民光
森川金吾 金之丞 太郎
宝暦十一巳年六月朔日初見○安永八亥年
十二月廿六日家督○同年十二月廿二日初
見○天明元丑年四月廿六日大御番○寛
政五丑年八月十五日死 年四十九歳 宗保寺
〔?〕葬

長春

実 森川八左衛門氏与二男
森川次郎之助 栄次郎 金之丞
寛政二戌年十二月廿四日家督○同
三亥年六月朔日初見○寛政五丑年

寛政〇同九巳年五月廿六日大番入

寛政十一未年十二月八日病免

高三百石

源姓

森川

高五百石

家紋 丸内藤ノ丸 角四ツ目結

佐々木太郎定綱十四代嫡孫与三郎後

流森川金右衛門氏紹次男

氏房

森川頼母 今次郎 伊織 隠居 号玄

貞享四卯年七月十二日父知行五百石の元

元文五申年閏七月廿五日致仕の宝暦六

子年四月九日死七十二歳宗梧ちるよ

葬つる

二男 森川金右衛門氏長二子

氏実（ヒロ）

森川金右衛門 改る 庄九郎

元文五申年閏七月廿八日十五才ニテ家督

寛保元酉年十二月廿日一ノ橋御蔵番ニ相勤（同年十一月十一日御加人ニ）

申渡 ○延享二丑年九月十二日西丸御小性組

○寛延四未年七月十二日同小普請

○宝暦二申年七月廿四日御書院番 ○

明和二戌年十二月廿八日病免 ○寛政二寅

年五月廿二日六十八才ニテ死 同寺ニ葬

氏栄（ヨシ）

森川庄九郎 惣太郎

天明二寅年八月七日家督 ○寛政五丑

年五月廿日死 早年四十 同寺ニ葬

長興

二男 森川金右衛門氏栄二子

森川虎之助

嫡子 ○寛政五丑年八月四日家督 ○（十一才）

同三年八月十一日[illegible]

寛政十一未年三月廿二日死 二十三歳 同

寺ニ葬ル

長民

実森川金太郎[illegible]子

森川百吉

寛政十一未年六月二日[illegible]○

高五百石

源姓 高五百石

森川

実[illegible]

森川金太郎氏俊二代森川金太郎氏信

次男

氏時

森川三左衛門

元和五未年御近習ニ被召出○寛永七午年

寛永三[illegible]

御書院番被仰○寛永十酉年二月七日加増ニ而

五百石ト成○同十一戌年病死○[illegible]

辭仕○寛文四辰年五月十八日死五十
八歳同寺ニ葬

氏芳　森川三九郎

承應元辰年家督○延寳二寅年九月（小普請）
廿日死同寺ニ葬ル

氏盛　森川吉左衛門（実森川六左衛門二男／三左衛門）

延寳二寅年十二月十日遺跡家督○元（小普請）

禄十四巳年四月四日死年五十保吉寺ニ葬

氏従　森川九太郎

元禄十四巳年七月九日家督○享保
八卯年二月廿六日死年二十七歳同寺ニ葬ル

氏勝　森川三左衛門　万五郎

享保八卯年五月廿二日家督○享保九（小普請）
辰年十月九日小性組○元文四未年

八月七日死ス二十三歳同寺ニ葬ス

氏芳
実ハ森川[illegible]ガ三男
森川十兵衛

元文四未年十二月九日[illegible]家督ノ
同五申年十二月十日御書院番ノ寛保
二戌年三月廿五日病免ノ安永四未年
閏十二月十二日致仕ノ天明八申ノ年五月廿三日
死ス七十二歳同寺ニ葬ス

氏毅
実ハ山下[illegible]ガ二男
森川金右衛門　主水

明和九辰年十二月六日[illegible]ノ安永四
未年閏十二月十二日家督ノ安永五申年
二月廿五日西丸御小性組ノ安永七戌年十二月
十四日病免ノ天明元丑年閏五月西
丸御書院番ノ同年九月廿五日死ス二十四
歳同寺ニ葬ル

氏村　実森川小左衛門氏只六男　森川紋十郎

天明元丑年十二月出雲守手前小普請○同
二寅年八月廿一日死十七歳同所ニ葬

氏林（ウジシゲ）　実胡(?)…之二男　森川三左衛門　令使

天明三卯年十二月六日出雲守手前家督○
高五百石

源姓　高千五百石

森川　家紋　九曜

佐々木太郎定綱十五代森川金右衛門氏
俊二代森川金右衛門氏信二男

之俊　森川小左衛門　三十六俵

寛永二丑年御小姓組○同三寅年御上
洛供奉○同八未年中奥御番入○同十二
戌年　大猷院殿御上洛供奉○同十三子

年御書院番〇慶安元子年日光
供奉〇同二丑年同所〇明暦三酉年
正月十八日江戸大火ニ付京大坂ヘ使〇
万治元戌年御目付格〇同二亥年京大坂
御目付〇同三子年日光御目付〇寛
文二寅年駿府御目付〇同三卯年日光
供奉〇同七未年
大猷院殿十七回御法事日光勤番〇同八
申年三月右ニ付去ル段当府肥前国

嶋原ヘ永預〇延宝七未年病死〇
被仕〇天和二戌年九月四日死七十二歳
牛込宝泉院ニ葬ル

之勝　森川小左衛門　市之丞
御書院番〇天和二戌年家督〇元禄
十四巳年七月六日死五十四歳同所ニ
葬ル

之亟　森川市左衛門

元禄十四巳年家督○寛永元申生

六月御書院番○享保十六亥年四月

廿四日死同寺ニ小石川葬ル　四十二歳

之爲　実森川小左衛門之勝次男　森川四郎左衛門

享保十六亥年七月六日小普請ニテ家督

○元文三午年十二月十四日致仕○明和二

酉年二月廿五日死六十一歳同寺ニ葬

之忠　実森川四郎左衛門氏従次男　森川小左衛門

享保十八丑年七月六日[illegible]○元文

二午年十二月十四日家督○寛保元酉

年十月廿八日西丸御小性組○宝暦十一

巳年八月二日西丸勤○同十二年午十二月

十六日西丸勤○安永八亥年四月十六日
御本丸勤○天明元丑年五月廿六日西丸
勤○同三卯年二月十日老衰ニ付寄合○同
五巳年八月十二日致仕○寛政七卯年十二月
六日死八十四葬同寺ニ妻ハ不

忠福　森川小左衛門　鉄之助　鉄太郎

天明五巳年八月十一日家督○天明七未
年十二月廿日御書院番○寛政元酉年
五月二日病免○同四子年四月六日
御術上覧ニ付反物二○同八辰年十二月廿日
西丸御書院番

高六百石

源姓　高四百石

森川　家紋　丸内酢漿

馬場又右衛門重信長男

重次　森川吉之丞

天正二年庚年森川金右衛門之男○寛永十酉年大猷院殿○駿河大納言殿附○五郷さまた大御番○寛文六年十一月八日死年六十三牛込光照寺ニ葬

重宗　森川五兵衛

寛永十四丑年大御番○寛永七未年　文

七月御家督○寛文十戌年六月十八日九

代官に被仰付候奉行○延宝二寅年十月

二日死去年六十八法名同寺ニ葬

重武　森川五兵衛　半兵衛　七太夫

寛文三卯年十二月十九日大御番○近習

三卯年十二月十二日御家督○貞享元子

年八月十八日新御番○同四卯年七月

道奉行○元禄六酉年十一月十一日病

免○同十六未年十二月廿一日大御番○

正徳元卯年七月十一日死去年六十八法名大坂院

佛寺ニ葬ス

速達　森川同之丞　伝次郎　毅負

元禄十六未年二月十五日初見○宝永

六丑年四月六日大納言殿の正徳元卯年
十月四日小姓組の享保二十卯年十月
五日大番組頭の元文元辰年六月
十九日死去年七十二歳同寺に葬る

清賢

実ハ笠原八郎兵衛□次男
森川勘六郎

享保十四酉年十一月廿二日継嗣
の元文元辰年九月三日小姓組の同十
二月廿三日大番組頭の宝暦二申年
四月四日新番頭の同七巳年四月
十八日病気に付同十辰年十二月廿九日
寄合の安永二巳年三月廿三日死
六十歳同寺に葬る

清房

実ハ森川内記近速次男
森川七之助

宝暦六子年十二月廿七日嫡子の
同十辰年十二月廿九日小姓組の同十一
巳年五月廿一日大番組頭の安永二巳年

八月十日死四十歳同寺ニ葬ル

清純

実貴川猪六郎信賢次男

貴川々左衛門

安永二巳年十二月五日家督同三午年二月廿八日大御番入天明七未年十二月廿五日死二十五歳同寺ニ葬ル

清冨

実安藤八十郎信任次男

貴川半次郎

天明七未年七月五日家督同八申年六月十二日大御番入

高四百石

源姓

○森川　元山崎　高七百石
家紋　丸ノ内ニ酢漿
　　　角ノ四ツ目結

先祖詳ならす

長次　山崎ヲ改森川ト称
　　　森川六左衛門

天正十一申年森川金右衛門氏俊与力

○寛永六巳年八月八日三百石ニ而相勤

○同十酉年大御番　○同年九月十二日

死　葬地不知

長義　森川六左衛門　六之助

寛永十酉年初見人○家綱○寛永
十二子年大猷院○万治三子年七月廿
九日大御番組○同年十二月廿六日加扶
二百俵○寛文六午年八月廿五日大坂詰
船手加役五百石○延宝五巳年五月廿
八日死大坂ニ而病死ス

長要　森川六左衛門　六之助

明暦二申年初見人○寛文三卯年十二月
廿三日小性組○寛文五年月日不知三百俵○延宝五巳年家督遺跡
二百石小普請組長順ニ卯組○元禄十三
辰年八月廿二日死年五十保病死ス

長定　森川六郎三郎　市郎兵衛
六左衛門

元禄六酉年十二月九日御書院番○同十三同組

十二月九日家督○享保六丑年五月十
九日死同寺ニ葬ル

長頼（トニ）　赤井六左衛門　九平郎
○月日不知初見
享保六丑年七月廿七日家督○同十二
未年四月十一日御書院番○同十九寅年
二月廿六日死同寺ニ葬ル

長久　赤井六左衛門　実父長頼同道
享保十九寅年五月二日家督（小普請）○寛保三
亥年八月十九日西丸御小性組○延享二
丑年九月朔日御部屋御勤○（延享二丑年十月廿七日進物番）宝暦十二午年
四月十日西丸小十人頭○同年八月二日御本
丸勤○（同年十二月十八日布衣○宝暦十二年十二月西丸勤）明和四亥年十一月十八日死五十二歳
同寺ニ葬ル

長祗（タダ）　森川利右衛門

宝暦十三年十二月十九日初見

明和四亥年十二月廿七日御家督○同五

子年七月四日死二十四歳同寺ニ葬

長恕（ヨシ）　森川伴三郎　太宰　六蔵

実天徳山隠居桑幸二子

明和五子年十月八日御家督○同七

安永四年十二月十六日初御目見

寅年八月十六日西丸御書院番○天明三卯

年八月廿八日病死○同年十二月十日

死二十三歳同寺ニ葬

長保　実天徳山隠居二男

森川主殿　政重

天明四辰年十月廿七日御家督○同年十二月

天明五年十二月十五日初見

廿六日家督○天明六午年十二月廿九日御

小性組○同八年十一月廿一日進物番

高七百石

源姓　　高弐百俵

（印）

森川　　家紋　丸ニ酸漿
　　　　　　　角四ツ目結

森川金右衛門氏俊弟新左衛門氏信二

代森川六左衛門長寛二男

長恒　　林喜玄濤

延宝五巳年弐百石而御組○小普請○大番○廟見○掛方以後

○享保三戊戌年四月廿二日死年九十之保字沼

ゝゝ安了

長保　森川吉之丞　辰五郎

享保二酉年家督　同元文元辰年

十二月廿二日大御番　同寛保元酉年

八月廿九日死　同寺ニ葬ル

長達　森川新之丞　万之助

寛保元酉年十二月二日家督　同宝暦

十辰年六月廿六日大御番　同安永二巳年

十二月廿三日死　同寺ニ葬ル

長房　実ハ[illegible]次男

森川傳吉

安永二巳年十二月廿七日家督　同安永七

戌年九月廿八日西丸御小性組　同年

十月二日死　同寺ニ葬ル

安長　森川巳三郎

実ハ森川小左衛門又忠男

安永七戌年十二月廿七日九歳隠居　吉宗（右傍）書院

高二百俵

源姓　高三百俵

森川　家紋　鐶草　蔓柏　五枚柏

森川九左衛門好定七男孫市好高嫡男

光廣　森川新之丞　孫市

寛文三卯年四月廿日被召出御切米二十俵三人扶持ニ而延宝五巳年十二月廿九日御勘定ニ弐拾俵二人扶持加増、同六午年三月廿日

小石川御殿江被召出候年二ノ丸江被
組頭の同年二月朔日同所ニ而使役の
元禄二巳年十二月朔日同所ニ而被召抱
百五拾俵の同七戌年十二月十一日死去
葬之都清寺ニ葬ス

好生　吉川新兵衛

元禄四未年十二月二日小十人組の同七
戌年閏五月四日二丸江相勤候の同年七月
十一日家督の宝永元申年二月廿八日加扶
百俵の宝永二酉年八月廿二日一統小普請
の享保六丑年九月廿九日死去同寺ニ葬る

好元　始好武　吉川新兵衛　実子

享保六丑年十一月家督の同十九寅年
五月十二日小十人組の宝暦二申年八
月十一日死去同寺ニ葬る

好斎　吉川又右衛門　重信　重斎

宝暦二申年十二月廿七日小十人組ニ
同六子年十一月四日家督○同九卯年
閏七月十二日病免○安永七戌年六月十
七日評定所書物御用出役○同八亥年
八月石川日向守殿ゟ褒美白銀十枚○同年
九月十八日死去年一永同寺ニ葬

好恭　吉川八三郎

二丈六中村彦右衛門利年二男

安永八亥年七月四日御養子○同年
十二月八日家督○天明元丑年七月廿二日
西丸小十人組○同六午年閏十月廿日御
本丸勤○寛政四子年正月廿日刀術
上覧之節褒美二○同八寅年二月廿二日吹
上大的上覧ニ付被二○同七卯年十月十九日
吹上弓術上覧○同年十二月廿日本丸
川勤御供弓術攻附之二○同八辰年

四月三日相続　○寛政八辰年九月
廿二日死　四十四　法名本法院(?)

好房　森川冬八郎
実松本民部之助(?)次男
寛政八辰年十二月三日養子(?)家督(?)　十七歳(?)
高三百俵

高百五拾俵
源姓　家紋　酢漿草　蔓柏　二重輪(?)　丸に枝柏
○森川
森川彦右衛門(?)二男
勝宗　森川甚十郎(?)
元禄十五年午九月五日　百五十俵　御勘定　○享保
十八丑年病死　○寛保元酉年七月
二日死　法名本法院(?)

好寛　森川彦太郎
享保十八丑年二月二日御勘定○寛保元酉年十月二日大番○宝暦五亥年五月十八日御持方御金奉行○同寅年十一月十七日死同寺ニ葬

好亮（量）　森川鶴太郎
宝暦八寅年十二月廿七日大番○同十一巳年五月六日死同寺ニ葬

光好　森川彦次郎　実好寛二男[illegible]
宝暦十一巳年九月二日名跡家督被仰付○同十二午年十一月十二日死同寺ニ葬

勝理　森川邦之助　[illegible]
[illegible]○実川合[illegible]次男
宝暦十二年○十二月廿七日[illegible]

安永五申年二月二日西丸小十人組○同
六酉年十月病免○天明五巳年三月○天明元年十一月廿四日西丸御書院番入○同二年八月廿六日病免
月廿八日西丸小十人組○同年十月七日病
免○同七未年八月廿一日小普請入○天明
八申年八月十八日病免○寛政元年
五月廿六日甲府勤番支配○同十一年十月廿六日
甲府勤番

高百五十俵

源姓
森川　　　　家紋　丸ニ酸漿　角ニ四目結　　高四百六拾七俵
森川今右衛門氏俊二男

正次　　森川今兵衛　　勤仕
宝暦十二午年初而御小性組○宝暦十三未
依願年○同七寅年御番御免御家
進者○宝永十八巳年二月三日死去
本年之遺跡相続

決弘　喜川四郎左衛門　伊織

寛文二寅年四月廿一日桜田御殿ニ而小
性組ニ而百俵○同年十一月御使役○同
十一亥年三月ニ而小性組番頭○延宝七
未年三月八日御小納戸役○天和二戌年（○一位様御附出是上京）
六月甲府御定番加増百俵○元禄六酉
年（四月）病死○同十一卯年七月十一日致仕
○同十三辰年二月十日死七十九歳同

右ハ五郎兵衛子

友重　喜川中務

延宝八申年八月廿日桜田御殿ニ而御
目見○元禄七戌年六月廿一日御小性○
同十丑年二月十一日小十人頭ニ而足高
百俵○同十二卯年七月十二日寄合○
元禄十四巳年十二月廿二日病死○宝永
元申年十二月御納戸役御役○同四亥年
十二月廿日病免○享保六丑年十六月

廿一日被仕○同十二申年十二月廿四日死
六十歳同所ニ葬ル
文政隆殿出営下出成候相伏之書

友房
実父 森川助十郎
○実森川四郎兵衛次男
元禄九子年四月九日桜田御殿ニ而出仕
○同十一寅年十一月十六日小十人組○宝永
元申年十二月西丸へ御供○享保二
酉年十二月廿四日西丸御広敷添番
○享保四亥年十一月廿日免し出仕ス
○同八卯年六月廿五日依願小普請入
○同十二未年十二月十三日死四十七歳同
寺ニ葬ル

友方
実父 森川七太郎
○実福田源太郎正勝次男
享保十二未年五月二日忌継被下子
小普請○同十八巳年正月廿九日西丸小十人
○大的ニ見習○宝暦十三未年十月
宝暦十三年八月廿三日相勤申候△
△同十三年十一月十日西丸勤

十八日新番頭ニ而天明二寅年二月十六日
老免寄合ニ而寛政元酉年四月廿二日
致仕同二戌年三月十二日死七十八歳
同寺ニ葬ル

友旋（トシ）　実石丸清左衛門輝信二子
赤川清二郎

宝暦十辰年三月廿八日御番入之子ニ而上
総封上野人万福ニ而明和五子年正月廿二日
二十七歳ニ而死同寺ニ葬ル

民佳（モト）　友旋二男
赤川伴蔵

明和五子年正月廿二日嫡孫承祖ニ而寛
政元酉年四月廿二日家督ニ而同四子年
九月廿九日御番入ニ而同六寅年八月八日
小納戸ニ而同年八月晦日小納戸役方ニ而同九
巳年二月廿四日西丸勤ニ而同年五月十二日

鎗術上覧之節ニ
高四百六十七俵

源姓
森川
高三百石 内五拾俵
本氏 堀場
家紋 丸ノ内竪梶ノ葉 角ノ内ノ月結
堀場三四郎氏業二男

氏重　森川助右衛門
東照宮御代尾州比良郷在住長久手陣
の節親類共集り比良城ニ在住罷在
合命を蒙り右古城兄金右衛門と一家
在住天正八辰年兄金右衛門氏俊の親

歳六人の者ともたゝかひこれを合を蒙て
釆地二百石を賜ふ○万治の比常陸国
にありし頃郡領す○元和元卯年十二月
船にて死す年六十六武州深谷村宝積
寺に葬る

氏成　法名[illegible]

信之

森川戈兵衛

台徳院殿御代大坂両御陣供奉○元和元
卯年家継○寛永十酉年宗家二
代目森川今右衛門氏信新ひきまり大
御番を命ぜられしが後二百石を加へ給ふ○
同十六卯年九月十七日死す同寺に葬る

政俊

森川金兵衛

東照宮命によりて尾張大納言殿へ附させ
られ森川先領尾州殿将[illegible]村に居住し使番

と號し其後病身ニ付隠居して甲州
上條村ニ引込長男表川孫左衛門長次
と兄助左衛門長俊の養子と成

某　　表川加兵衛

駿河大納言忠長卿ニ附られ大番ニ居
其後寛永十二亥年正月廿五日死して
武州宝積寺ニ葬ル

信正　　表川助左衛門

大猷院殿御代初見〇寛永十五寅年
大御番〇同十六卯年父死去ニ付加役二
百石を收公せられ本地二百石ニ編
入家督〇万治二子年病免〇貞享
二丑年四月四日死去六十六歳　牛込
寺町保善寺ニ葬ル

信春　森川助之進

万治二亥年大御番○寛文八申年五月
元方御納戸○天和元年閏八月十六日
常憲院殿御代御納戸組頭○貞享二丑年
七月十六日家督○廩米二百俵○同百俵
御加増三百俵高に被成○元禄元辰年
十月二日御役御免小普請○同三午年
正月より年始五節句月次登城之○正徳三
巳年四月廿五日死去同寺に葬る

信定　森川長之助

正徳三巳年同五月廿七日家督○同五
未年五月廿九日死去同寺に葬る

信政

実ハ安部式部信旨二男

森川孫太郎

正徳五未年七月廿六日養子家督○享保十巳年十二月元方御納戸○同十三未年三月廿五日西丸御小納戸○寛保二戌年九月廿九日死ス年五十一葬同所

信馮

森川左京　孫五郎

隠居休斎

寛保二戌年十二月二日家督○寛延元辰年七月十日元方御納戸○同二巳年八月廿三日新御番○宝暦二申年十二月十日辞見小普請○明和四亥年十二月十日致仕○安永四未年八月廿九日死ス年七十七葬同寺ニ而死去ス

信友

森川虎之助　助左衛門

高三百石

明和四亥年家督○同九辰年正月廿八日
大御番○寛政二戌年十二月十二日大御番
組頭○同三亥年二條在番中
禁裏　仙洞御移徙相済御祝儀として
刑部卿殿より被進物の御使を勤む
○同七卯年三月五日小金原御鹿狩供
奉

源姓
森川
森川與四郎氏兼二男
高四百石
[illegible]拝領
角田[illegible]

氏重　森川助左衛門
東照宮長久手御陣の時尾州比良と申[illegible]
所ニ付親類共集り比良城ニ籠在右命
を蒙り古城ニ兄金右衛門氏俊と共ニ籠在
文禄二巳年尾州ゟ関東へ下り関ヶ原

御陣乃時より
台徳院殿供奉眞田より今右衛門民俊に一所ニ
死去○元和元卯年十二月朔日死去六十
六歳武州足立郡深作村寶積寺ニ
葬る

長俊　森川助右衛門
慶長十四酉年

台徳院殿え拝謁○大坂両御陣供奉○元
和二辰年
駿河大納言殿附○同年十二月采地四
百石を賜ふ○大納言殿落去ニより是
斤相守ニ預ケ置る○寛永十三子年
台徳院殿え進同十四丑年常陸國鹿嶋郡
の内四百石を賜ふ○同年十二月廿二日小性組
○同十九午年十二月九日死去五十九歳
同寺ニ葬る

長次　実ハ森川金右衛門政俊四男
森川孫太夫

実父金右衛門政俊

東照宮の命により尾張大納言殿へ附られ
寛永の頃尾州渡採村を賜り使番
かくまもりしが病により甲
州上条村へ引こもり思ふ所ありしが
伯父の縁によりまた召出され寛永十九
午年十二月十日長俊乃家を継く○正保
元申年六月十六日御小姓組○延宝八申
年正月廿八日死す　六十四歳　牛込保吉
寺に葬る

長政　森川助三郎　孫太郎

明暦二戌年七月十六日初見○寛文三
卯年十二月十九日御書院番○延宝四辰

年十二月八日死ス、二十一歳、同寺に葬る

長英

嫡孫承祖
森川孫十郎

延宝四辰年十二月十二日父長政死去後、遺跡
元来の三百俵を賜ふ、小普請となる○同
五巳年嫡孫承祖○同年九月七日御番入、元
来の三百俵元上ル○元禄十丑年十二月十八日
御書院番○宝永四亥年十二月二日病免

○延享元子年六月十八日死ス、七十三歳
同寺に葬る

継長

森川孫右衛門　主□

延享元子年九月三日家督○同二丑年
正月廿一日一橋御屋形勤番○同年九月十
三日
大御所附御小性組○寛延二巳年三月六日病免

明和五子年十二月十六日小普請組入○天明
四辰年十二月二日死ス　年八十歳　同寺ニ
葬ル

惟長

実吉川定九郎武常之二男
吉川助九郎　　嫡子

宝暦十辰年十二月四日生○安永元
年九月八日嫡子届

長珍

実長谷川監物正長之二男
吉川左門

安永三午年二月晦日養子○同四未年
同十二月十八日初見○天明四辰年十二月
廿六日家督○同七未年二月十六日死ス
年十二歳　同寺ニ葬ル

克長

実ハ長昭二男
堀川幸次郎

高四百石

安永六酉年十二月九日○天明七未年
五月九日家督○同八申年十二月廿六日西丸
御書院番

源姓
森川　本氏堀場　高五百石
堀場与四郎氏兼二男　家紋　丸ノ内角四目結

重利
堀川久右衛門
尾州比良郷ニ住居天正廿年兄堀
川今右衛門氏俊形ニよりて石出某氏
後ニ加たる處ニさる命ニより三氏範
国足立郡源作村二百石の御判物を賜ふ

○致仕○慶長七寅年三月廿六日死ス法名民外
深作村宝積寺に葬る

重久　森川久左衛門
実ハ森川助左衛門氏実ガ五男

其子○家譜○寛永十四年宗家二代目森川金右衛門氏信が養となり大御番を命せらる○同十六卯年（日光山御参詣の時供奉す）十二月加増二百石
其後年ゝ采地を賜り五百石の廩米五百俵を賜ふ○慶安二丑年六月四日死ス八十二法名同寺に葬る

重成　森川久四郎
二男

家譜○
厳有院殿御代大御番松平久四郎組○寛文九酉年五月八日死ス牛込寺町保善寺に葬る

重之　森川久太郎

家督○貞享元子年十二月十八日大御番
○元禄五申年五月廿六日死ス二十歳
同寺ニ葬ル

盛房　森川主計　市丸

元禄五申年七月廿二日家督○同日土寅寺
五百俵内上知行ニ被仰付之下野國ノ内
五百石給ル○元文元辰年十月廿六日致仕
○同五申年十月二十三日死ス五十五歳同寺
ニ葬ル

綱利　森川久太郎　亀十郎

元文元辰年十月廿六日家督○同二巳年

五月九日大御番○明和八卯年二月廿七日
二條ニ於テ死ス五十八歳京都千本通
光清寺ニ葬ル

定利　森川太郎　主計　傳之助

明和八卯年五月二日家督○天明六年
年知行所損毛拝借金百両○同八申年
六月十二日大御番○寛政元酉年六月

九日死ス五十五歳牛込寺町保善寺ニ
葬ル

義利　森川定次郎　実ハ森村久右衛門恒依二男

天明四辰年十二月廿五日養子○寛政
元酉年八月四日家督○同年八月十九日
初見○同三亥年五月十二日大御番○同
四子年七月廿六日大坂在番の時發病

弱小にして死ス二十七歳駿府八幡村
補龍院に葬る

利雄

実木村久左衛門恒佐二男
森川岩三郎　高五百石

寛政三亥年十月四日養子となり家督〇同
十戌年五月十四日御術上覧之節及拘

源姓　家紋　丸ノ内蔦葉　角四ツ目結

森川　高識を依

森川久右衛門重久二男

重定

森川孫右衛門　後久右衛門

慶安己卯年十月十八日新規召出され
三之丸附〇同戊辰年三月廿七日御目見被
御小性組と命ぜられ廩米二百二拾俵を
給ふ〇延宝七未年六月十九日死ス年四

寺町保善寺に葬る

重清 森川孫四郎 実ハ飯田三左衛門某男

延宝七未年七月十二日神田の殿に就く
其子家督百俵相続す○元禄六酉年
七月廿一日桐之間に番入○同年大御番○
宝永四亥年三月廿七日死去て同寺に
葬る

重種 森川庄之助 実ハ神尾七郎右衛門長孝二男

宝永四亥年五月廿六日家督○享保
元申年五月十五日死去て同寺に葬る

重富 森川茂七郎 実ハ松籠茂三郎為易二男

享保元申年十月十五日家督○同七寅

年十二月廿一日死去同寺ニ葬ル

定英　実森川藤三郎乃易七男
森川孫七郎
享保七寅年十二月廿五日家督〇同二
辰年二月二日大御番〇宝暦三酉年
六月十日大御番組頭〇安永八亥年三
月十四日京都大番の節
孝恭院殿御法号御免下ニ付御副御用
同年五月七日褒美金二枚時服二〇
天明元丑年十二月十二日老免褒美金二枚
〇同二寅年五月六日死去七十一歳同寺
ニ葬ル

定英　森川孫右衛門　岸太郎
宝暦八寅年九月十五日初見〇明和三
戌年弓射上覧の付御馬一疋及拝領と賜

安永七戌年七月十九日御書院番○寛
政四子年同二月廿六日死七十三歳
日寺ニ葬ル

定刑　荒川孫九郎
　　　高二百俵
天明四辰年九月部屋住ゟ初見○寛政四
子年五月家督○

源姓　　高四百石

○森川　本氏堀場　家紋 [illegible]
森川今左衛門氏兼四男

重定　堀場小之傳
天正十二申年小牧長久手御陣の時
東照宮命によりて森川今左衛門氏俊親
戚六人の者右集尾州比良郷古城ニ
ろ此時拝偏して○文禄三午年八月吉

死して年三十五武州足立郡源作村宝
積寺に葬る

重氏　森川八左衛門

文禄四未年
東照宮へ奉仕廩米を給ふ時に墟場を
改め森川と称して○慶長五子年関ケ
原御陣の刻より
台徳院殿へ仕へ大坂両御陣供奉○致仕○
寛永十一戌年八月十五日死して年五十歳
同寺に葬る

重政　森川小左衛門
実森川八左衛門重氏二男
家督四百石○寛永九申年九月四日
初て御将代今百石世話して○同年大番
○正保二酉年七月廿八日大坂在番に於て

死去二十九歳市ヶ谷長龍寺ニ葬ル

重時　黒川小膳　八左衛門

正保三戌年家督○大御番○天和二戌年四月御小普請入○貞享五辰年五月十二日病免○元禄十七申年十二月十五日死去七十七歳同寺ニ葬ル

氏次　実黒川助左衛門伝正二男　黒川小右衛門

元禄十七申年三月其養子家督○宝永二酉年二月二日大御番○同三戌年二月九日二條在番ニ於テ死去廿一歳京都北野恵向院ニ葬ル

勝雅

実ハ川井次郎兵衛勝昭二男

森川外記　岩之助　七郎左衛門

小左衛門　主水　隠居浄芸

宝永二戌年五月廿九日養子家督○享保四亥年八月二日大御番○同九辰年十二月十五日新御番○同十五戌年二月十九日病免○明和七寅年八月八日死ス七十六歳市ヶ谷長龍寺ニ

[illegible]

宝暦十三 二月十九日致仕

快勝

森川七郎左衛門　岩次郎

二百 四百石

宝暦八寅年十二月十九日家督○同九卯年四月五日大御番○明和三戌年十二月十四日新御番○同六丑年二月十七日御弓矢鉄炮与力○安永五申年日光御社参供奉○天明元丑年七月九日新御番組頭○寛政元酉年七月四日御役御免

小普請組頭

実ハ渡采女度以貞好六男

勝命ヨシ 喜多川外記

安永三午年十二月十八日新喜之字○丙

申年八月廿二日初見

源姓

○森川 高武百五拾俵

家紋

塔場○郎氏恵四男

重定

塔場小出備

天正十二申年小牧長久手御陣の時令

りに森川金右衛門氏俊親戚六人

乃者召集尾州比良御古城ちちぶ

ぞらいく

東照宮へ拝謁して

重氏　森川八左衛門

東照宮へ奉仕廩米を給ハり州小金場に在
後に森川と称して○慶長五子年関ヶ
原御陣の供奉

台徳院殿へ奉仕大坂両御陣供奉

重政　森川小左衛門

大猷院殿へ奉仕大御番

重房　重政二男　森川源左衛門

寛文二寅年十月十八日二男より新規
小十人組へ召出され廩米百俵十人扶持

○宝永元甲申年十一月廿八日御加増

○加秩百俵、実禄二百石、指俵とする○享 ○正徳三巳年十二月廿八日老之
保四亥年十二月晦日死、七十七歳、市ケ
谷長龍寺ニ葬ル

末房　森川小右衛門
実父山本七郎兵衛四男
宝永三戌年八月十六日養子○同六丑年
大御番○享保四亥年十二月晦日家督○
同九辰年十月廿八日新御番○寛保二戌年

正月八日死、六十歳、同寺ニ葬ル

由房　森川八左衛門
寛保二戌年正月二日家督○同年
八月八日大御番○延享元子年六月
十三日病免○（天明）同三卯年七月七日死、
六十四歳、同寺ニ葬ル

佳景

実市川伝左衛門倅寛之二男

森川甚蔵

天明三卯年十月四日養子家督○寛政二戌年六月廿日死ス十九歳同寺ニ葬ス

寛勝

実森川七郎左衛門睦猶二男

森川虎之助

高二百五十俵

寛政二戌年九月四日養子家督

辰

源姓　高六千石

○桒門　家紋　丸ノ内蝶　角四ツ目結

佐々木五郎定綱之出尾張守行人孫

與四郎宗貞之嫡流桒門出羽守重信二男

重右

桒門七之丞　下総守

寛永五辰年初テ入御目見得○同九申年

御小性組○御書院番○同十一戌年組頭

六百石○明暦二申年十二月廿日御書院
番頭被仰付、三百俵合八百石、同年十二月
布衣○万治二亥年八月廿一日御小性組番
頭同年十二月廿七日諸大夫被仰付、千俵合
千八百石○寛文二寅年二月廿二日御側
御用人被仰付、二千石合三千石○同三
卯年正月日光御供○同年六月三日
三千石被下度同七月十九日御暇○同四辰
年六月十九日加増三千石合二万石○

同六午年十二月三日卒逝年四十七
病気ニ付処同八日右為御尋石川某御使ニ
而御紙上意之趣被仰付相続同日死去三歳
下総関宿実相寺院ニ葬

常有絵係御画被禄寿御之巻　一幅

菅圓親王御筆　一軸

同　和歌古軸　一軸

同　古今和歌集　上巻ハ御宸筆　下巻ハ御真筆

古今伝所持

実ハ森川伊賀守重政か男

森川縫十郎　摂津守　下野守

重高

始重房　又重明

養子○万治三子年十二月廿六日初見人

○寛文四辰年叙爵摂津守○同六午年十二月

養父致仕之遺跡之内千石同弟五千石領之

千石森川某之助へ分之其子某々与分

せらる○延宝二寅年御番頭加番同之

卯年十月御番○同七未年八月十二日

御小姓組番頭○同年十二月水戸宰相綱條

為御使下総国迄参府之度○天和元酉年

七月六日御書院番頭○同二戌年四月廿

一日御加増千石合六千石○貞享元子年

三月廿六日大番頭○同年八月廿八日於殿中

にて越後国高田城請取之節善

ふとひしくしうて病死

二千石之元禄元辰年七月二日二十歳五年春

之後同年八月朔日
禁裡江御太刀御馬被進献御使 同十二年
正月廿八日御暇○同年六月二日御側
御奉公○同年七月六日備之守
台徳院殿 御佛殿御修復惣奉行 同年十一
月廿六日御本丸ニ而御側職ニ
勝手御免○同年十二月十八日御城ニ而
病身ニ付御役ニ而御免被遊候 病気
ゆるゆる保養可仕旨被仰出 御奥向人

大坂御番…死去○同六酉年十月
十二日死 四十五歳 …寺ニ葬

実 栗門出羽守…女
栗門…郎 下総守

俊史
初 重鉛 文蔵（サト）
養子○元禄六酉年十二月廿日部屋住ニ而
常憲院殿柳沢出羽守亭ヘ御成之節出羽守
御成…

年寄衆連名之御奉書を以傳奏衆へ被仰付
所司代若年寄衆江達有之右之段京都
遣候○同年十二月十一日御移徙○同七戌
年四月十七日中奥御小姓○同九子
八月六日御小姓同年十二月九日叙爵○
同十二卯年閏九月十日惣領除ニ而部屋住
御部屋ニ而新知ニ而被下三百石二千俵○宝
永六丑年六月二月廿一六日中奥御小姓○同年
六月六日

常憲院殿御廟所大ニ而勤○正徳二辰年
九月朔日御小姓組番頭○同巳年七月
十一日御書院番頭○享保七寅年二月九日
於江戸寄相勤御傳御役御免大番頭御使
○同八卯年三月八日大番頭○同十一午年
三月小姓組番頭格御側御用取次ニ付而
上意有之御菓子御下○同廿九日小姓組
ニて御褒美之御廉御下○同十三申年十二
月十六日新規ニ付同三月尾張信ニ而勤

○同十四辰年四月六日二條在番ニ被仰付○宜
勤ケ
禁裏附へ御加増ニ而御役料被下○同十七酉年
二月四日病死○同年十二月九日死去ニ付
跡目無之

德(トニ)田(ヨリ)　森川長三郎　職部　将之助

下総守

享保十七子年五月十二日御番入○同二十
卯年三月廿八日御役入○元文四未年

六月廿八日御使番○寛保元酉年　○同年八月廿七日御目付仰付○同年十一月十八日
十一月二日中奥御小性○同二戌年御役所
被仰付御役料○延享元子年○
十月七日御書院番○同二丑年十二月十七日
東照宮百三十回御忌ニ付日光山へ御使ニ而
八講御能役御用相勤同年十二月廿二日御加増
被下○寛延二巳年七月廿三日御小性組番頭
格○宝暦三酉年六月朔日寄合被仰付
同十二年御役同十五日御役御免○同○

六月十五日被渡○同年九月朔日御先代
御番衆○同戊戌年九月廿一日藤之丞子之
○同八寅年六月十五日大御番衆○同年十度
年七月朔日御側御用人○同廿日表向
之御香炉拝領今ニ所持○同年九月
廿三日将軍宣下御祝儀ニ付御番
をいく寸法○同年十一月廿九日御番
之節○同十一丁亥年八月二日御逝去御仕置
一翁御役目御小袖二御帷子二御書付下

一具足其外下賜候○同月同
第之内御預り被仰○同年十二月十五日大
御番頭○御納元甲申年八月（九）晦日（巳）死行年十
八葬同所

後清

東門長三郎　蔵助　下総守　悉助郎

富慶十三未年十二月廿五日初御目見○御納
元甲申年十二月五日家督（寄合）○同二酉年十二月
廿一日御小姓女中二之御座席大之書○

同三戌年十一月廿日御免○同年十二月十
五日中奥御小姓○同巳亥年十二月十六日
御奏者○安永四未年四月十五日御免御
役料被下置○同八亥年四月十六日御中老
並○天明元丑年九月十五日尾張大
納言殿國元ヘ御使同年十一月朔日御側
今格役同廿一日御廟同十二月朔日御備
○同三卯年四月廿六日御先手頭○同
七巳年九月十五日職高被免○同七

未年三月九日御役任所替○同九○十二
月廿九日朝鮮聘使人参相納○同八申年
二月十九日此度上ニ花檀ニ備一流請為
上演之○寛政元酉年十二月十五日安藤
對馬殿語書中務ニ付為之一為御對
二為敷内之く天明五為ニ長文相ニ十六日
所出ニ而ゐ達之天明五年中一九日
能格出張之外意中方御伺有之
手付之趣達之後ニ俗之○同二戌年二月

廿日死四十八才同寺葬

後世

実森川弥惣右衛門次男
森川識羽　亀三郎
高六十石武庫守忠恭様上ル日
養子○天明八申年十二月廿二日御目見○
寛政二戌年四月ゟ出座之○同年十二月
十八日御目見一度花櫃ニ付とひく一統家督
上ル○同二亥年六月廿六日火事ニ付
之上り○同八辰年五月十二日大清役

○同六寅年十二月十六日在年より来ル一階
出火ニ付出精ニ付御褒美二百疋○同
十午年十一月十二日小普請組ニ致

源姓　高千石

粟門　家紋　丸之内旭酸草
四目結

粟門出羽守重俊次男　〳〵

実粟門長十郎重俊男

俊勝　粟門　主水　主殿　土佐守　筆之助

養子次男〇延宝二寅年七月十八日

初而父高之内千石分知相合〇千和

三亥年十一月七日桐之間御番○同年
八月廿八日御小性組○元禄三午年九月
朔日桐之間御番○同月十八日小普請
○同八申年十二月十八日御小納戸○同十六
未年八月病死○正徳三巳年三月
十九日御小納戸○享保八卯年十二月廿日
御小性組与頭○同十巳年三月廿七日小
天英院様御広敷御用○同十一午年
三月廿七日小普請御広敷御用○

同年八月廿八日西丸新御番○同
十四酉年同九月廿八日右組之組頭ニ
同日致仕○同十七子年七月十九日死
七拾歳　法名宗浄運　葬

信矩　森川宗水　右京之亮　右之彦右衛門　采女
享保十七子年十月二日家督之○同年
十二月朔日初御目見○元文五申年十二月十六
御使番○同年十月廿五日ゟ鉄砲城

引渡同○寛七年七月十六日御暇今后役同○
八月廿五日御膳番上之○延享二丑年○
十月十八日病免寄合○宝暦八寅年○
九月十八日隠居○安永二巳年六月
十九日死七十七歳同寺葬

信英

実父永井[illegible]守[illegible]三男

桑山七十郎 今十郎 内匠 主水 唐介

延享元甲子年八月廿九日部屋住○
宝暦八寅年九月十八日家督○同九

同年十月廿八日初見

卯年二月七日御小姓組○明和六丑年
九月廿一日病免○同七寅年十二月廿二日
致仕○同年十一月十日死六十二歳同
寺葬

信尹

実[illegible]次男

桑山熊次郎 主水 主膳 安芸守

高五百石

明和四亥年四月十六日養子○同七寅
年四月廿二日家督○同八卯年正月

正月廿三日御小性組○同年六月三日
依願御番○安永八亥年七月日光御宮
○天明七未年三月廿七日小十人頭
廿六日布衣○寛政三亥年八月十九日
西丸御目付○同年十月廿六日御目付
○同年十二月十日来春
種姫君上ケ御家従御用両扱○同年
六月廿八日
姫君御葬送御用○同年七月十二日

孝順院殿御宝塔御操向就御一存延
御位牌所御修復御用同月十七日黄金
拝領之○同六寅年二月廿二日継之
下向之外御用取扱○同年六月廿二日
海辺御使御用両扱○同年十月十二日御
勝手御取締掛○同日人足寄場掛
○同年十一月十六日増上寺
文照院殿御廟所御修復出来御褒美
参○同年十一月十六日日光御

御黒屋敷ゟ御移徙御本丸西丸○同七卯
年二月十七日西丸ゟ御移徙出来本丸之
分○同年六月九日御式御飾出御本
西丸○同年九月二日日光御移徙被成候
同十二亥六日御帰府○同年十二月十七日福大
下向之節御用相勤候付加増二○同月
晦日御日光社参○同日濱御用屋敷人足
○同八辰年二月九日日光御門大門前屋
御移徙奉行同年七月八日御暇金五枚

付被二羽織同年七月九日御帰府○同月
十三日西丸御殿向并大奥向惣御移徙
出来本丸之分○同九巳年七月廿二日日光
御移徙奉行之節候付御用金三枚○
同年閏七月廿日日光御移徙奉行被仰付○
十月十三日帰府○同十午年十二月十三日
日光へ御暇○同年六月朔日御濱家上
之○同月廿日日光奉行○同十一亥二日
右日光御用相勤候付金千枚且右

御用之節背打弓射芸被遣金二枚同月
廿七日日光御参詣之節出来方宜背打候
上意之趣於松平伊豆守宅達○同年九月
十六日致寿

源姓　高六百石

○桑山　家紋　丸ノ内醋漿　角四ツ目結

桑山出羽守貞俊三男

重久　桑山八郎右衛門

寛永十三子年十四歳初見○同十五寅年
新規御書院番（同十五寅年十二月十二日）廩米三百俵○寛文
三卯年九月二日御書院番組頭○

同年十二月廿六日加増三百俵合五百俵○同十戌年六月廿九日病死○延宝巳辰年六月巳日死去七歳 生実 二六

重俊院葬

重良　実後原右之所貞人辰次男
森川勘之丞

延宝二寅年九月養子○同巳辰年七月十二日家督○同又巳年六月十日

小書院番○貞享巳卯年六月十八日桐之間小番○元禄二午年二月廿六日江 同年六月廿五日
書院番○同十一寅年廣原六百俵加
方之内下さう○正徳二辰年八月廿日
病死○享保六丑年十一月六日死亡
八歳青山瑞寺葬

俊賢　森川数馬　権之助

寶永六丑年正月御小性組廩米三百俵
○享保六丑年十二月廿七日布衣○
同九辰年三月十七日病免○延享五
辰年六月十日死六十七歳同所葬

後顕

森川数馬 伊勢守 甲斐守 金八郎

寛延元辰年八月廿日家督○同年
九月廿一日御小性組○宝暦元未年六月
十二日御小納戸同年十二月十八日布衣
○明和元申年七月朔日免寄合番入○
同五子年二月廿六日御小納戸(西丸)[illegible]書院
相[illegible]○同六丑年十一月十一日御小納戸
頭取格同年十二月十八日叙爵(伊勢守)○安永
六酉年六月廿六日御小納戸頭取○同八
亥年二月廿四日辭職○同年四月
十八日御小納戸頭取格布衣也○
天明元丑年五月十八日

御養君様御出之節ニ付西丸御小姓被仰付
○同五丑年五月六日
大納言様御具足召初御用相勤候付○
同六午年九月八日御番料ニ而御役○寛政
四子年五月十五日ニ隠居家督○同月廿
一日八王子千人同心頭一所被○同年
八月九日死六十八歳同寺葬

後親
実柳生主水久隆二男
柴門左近 嫡孫

明和六丑年三月廿二日養子○同
年十二月廿二日初見○同八卯年二月
十九日死十六歳同寺葬

後輝
実柴門間勝正信次男
柴門長門寅之助 金八郎 於
明和八卯年十二月廿五日養子○安永
元辰年六月十三日初見○同九申年
十二月十九日御小姓組廩米二百俵

○天明七未年六月廿四日御小納戸同前十二月十八日布衣○寛政四子年十一月三日家督○同五丑年十二月十二日御小性○叙爵○同八辰年九月十四日死去年十一歳 同所葬

倅
惲（ヨミ）　森川銕三郎
　　高六百石　武蔵本領同
寛政元酉年四月六日次男惣領○

同八辰年十二月二日家督

源姓　高六百五拾石

来門　本氏塙場　家紋　九曜酸漿　角四目結

佐々木太郎定綱十七代塙場与四郎氏
慧足利義輝公代織田弾正忠殿ニ仕家
塙場ヽ名家ヲ処氏慧勢領令安氏後
東照大神君家　上ニ来門ト改与四郎
氏兼ニ至ル

重次　桒門惣之丞

東照宮長久手御陣之節尾張比良之
廿而五一郎ニ御預ケ被成候處比良之
城ニ而討死仕候當主吉蔵ハ城ニ罷在候
民部ニ一所ニ罷在候○文禄元辰年
正月江戸ニ罷下り候而正宗ニ被召出
三百石被下○慶長十八年死七十一
歳武州足立郡宮村ニ葬。

廣久　桒門清八　後惣之丞

天正十辰年於伊勢今右衛門民部殿
にて召出民部様ニ而一同出座之れ同
十二歳御供○大坂表御供御供○同○正
月江戸下り候處同○二月朔日御知
二百石被下之御判物今ニ所持○
寛文十子年ニ家督合二百石拝領、
然○寛永九申年十二月十三日死七、

十二葉同前葉

次吉　桑山庄兵衛

寛永九申年十二月十三日父遺跡知行之内
延り高五百石之内弐百石千石弟候、
分知合せ千弐百石五千石家督 ○
同十酉年桑山今市氏代知り付
初り人大御番加恩二百石合四百五十石
○同十六卯年大坂御番 ○病死

○慶安三寅年六月廿五日死 年五十二歳
同前葉

昌次　桑山清十郎

慶安三寅年十二月十一日家督 ○百俵
二之年大御番 ○延宝八申年十二月
廿九日大御番組頭 ○天和元酉年十
二月廿六日加恩二百俵 ○同二戌年巳月
廿二日加恩二百石合八百五千石如斯、

此内二百石後男昌氏へ分知○元禄二
巳年七月廿八日死廿四歳回向院葬

昌勝　桑門八左馬

元禄二巳年七月廿日家督○同十一寅
年七月十日廣敷二百俵地方ニ直し
下さる○宝永七寅年七月廿六日病
気ニ付隠居○享保十七子年六月廿八日
死六十四歳同寺ニ葬

昌氏　桑門清四郎　小十郎

二百俵分知ニ而寄合ニ而分知家督被

昌武　桑門今十郎

宝永七寅年七月廿六日家督○
享保七寅年十二月十六日大坂加番
○同十九寅年九月十三日新御番○病免
○元文五申年十一月廿四日死六十五歳

同寺ニ葬

昌忠　栗門主馬

元文五申年十二月廿三日家督○同六酉年二月廿六日大御番○宝暦甲戌年四月八日病免○同年九月十三日死　六十九歳　同寺ニ葬

昌敬　栗門民三郎　庄三郎　松翁

宝暦甲戌年十一月三日家督○明和五子年正月十九日大御番○寛政八辰年七月廿二日病免○同九巳年四月十二日致仕

昌房　栗門武助　高六百五十石

寛政九巳年四月十二日家督

一高弐百二十俵

源姓

栗門 本氏堀場 家紋 丸ノ内雁金 角四ツ目結

依ゝ本太郎定縄十三代堀場与四郎

宗氏次男助之丞重次嫡子栗門

庄之丞道次次男

次改 栗門庄兵衛 本之丞

寛永九申年二月十三日又ゟ〆円

弐百五十俵分知○同十六卯年大御
番○慶安四卯年四月
清揚院殿御附○同年十二月小十人頭
加増百俵○寛文元丑年甲府江
罷越加増百五十俵合五百俵○病免
○同十二子年六月廿日死牛込宝泉
寺葬

吉次

実大田善長治文左衛門某次男
森川次郎太夫

万治二亥年八月
清揚院殿江初見○同年九月御小
性組○同三子年廩米百五十俵
○寛文元丑年加増七十俵合二百
二十俵○同十二子年六月四日父次郎
兵衛跡式五百俵之内二百俵
実子次男丑之助江三百俵分知被仰付
られ家督部屋住之内之廩米ハ被返
○延宝四辰年六月廿七日死同寺葬

某　森川四郎

寛文十二子年家督。死十五歳。同
高萩家野殺

方次　森川治右衛門

延宝四辰年家督。同八申年
十二月廿五日御小性組。病死。元禄
五申年九月廿二日死。同高萩葬

次勝　森川五郎右衛門
実森川八郎右衛門二男

元禄五申年十二月十八日家督。
享保十四酉年十二月廿二日致仕。
寛保元酉年八月六日死。同高萩葬

次信　森川源兵衛

享保十四酉年十二月廿二日家督

○元文三午年九月十三日小十人○
宝暦三酉年三月廿九日病死○
同七丑年十二月十二日役仕○明和七寅年
閏六月廿七日死七十七歳同寺葬

房次　栗門定次郎
宝暦七丑年十二月十二日大番仕○
安永八亥年八月廿日役仕

次秀　栗門源太郎
安永八亥年八月廿日大番○天明
二寅年正月朔日死二十五歳同寺葬

次尚　実ハ栗門定次郎房次二男
栗門末太郎
高二百二十俵
天明二寅年七月廿日大番○
寛政五丑年十二月十八日死二十一歳

同寺ニ葬

某　源寛

源姓　高二百俵

栗門　家紋 丸ノ内[illegible] 角四ツ目結

栗門庄三郎重次二男

逍治　栗門半兵衛

桜田御殿新規御小姓組 廩米二百俵 ○ 元禄二年十月廿日

元禄九子年六月御小納戸 ○ 病免 ○

享保十乙巳年六月二日死 [illegible] 宝泉寺ニ葬

房治

実一場左右馬次男
栗門万太郎

享保二酉年四月十八日養子○同七寅年十一月廿二日家督○同十八丑年十二月廿二日死三十六歳同所葬

正勝

実一場茂左馬次男
栗門久米之助

享保十八丑年四月廿二日養子家督小普請○延享元子年十二月十六日西丸小十人○寛延三午年十一月廿八日病免○宝暦三酉年十月廿六日死年四十歳同所

勝通

実栗門源左馬次従弟男
栗門久次郎

宝暦三酉年十二月廿四日養子家督○同四戌年六月十八日西丸小十人○同五亥年七月十九日病免○寛政六寅年四月廿四日致仕

実中川忠助長利次男
森川文四郎

至賢（ヨシ）

寛政五丑年三月廿四日養子 ○同六寅年四月廿四日家督 ○同十午年七月

十二日死 二十九歳 同寺ニ葬

永賢　森川藤次郎　高二百俵

寛政十午年七月廿四日養子家督

藤原姓

森川　高四百俵

家紋 九曜星

三河国住人森川日向守定兼嫡子

森川監物某男

照道　森川監物

東照宮三河在国中永禄十二年

[illegible]葬地不知

照憲　喜門助太夫

東照宮四十五年仕

大樹院殿大猷院殿ニ仕候○寛永十

二子年十二月廿日死　浅草清海寺

葬

照方　喜門助太夫

大樹院殿ニ附○

清揚院殿ニ附ニて弐百俵被下置

処○寛文三卯年十二月八日死同寺ニ葬

照重　喜門八左衛門　後九郎

寛文三卯年　桜田御殿ニて被召出○

甲府殿附○元禄二巳年正月廿日卒

綱吉公同年

文昭院殿御部屋住之節紙小姓組冊ニ被抜

○同九子年十二月廿日死同寺ニ葬

改記

実大谷米右衛門季政二男
森川与太郎

元禄九子年七月十二日初御目見〇同十五
年正月廿七日家督小性組〇同十六年
二月五日より小納戸〇同十六未年正月廿
六日
文昭院殿御筆色紙拝領〇宝永元申
年十二月五日西丸御小納戸〇同二酉年
三月十八日加増弐百俵〇同四亥年

十二月十八日布衣〇同六丑年二月御目見
御寄合 宣下之節役儀御様式〇〇九献
〇正徳二辰年十月十四日大喪の節
[illegible]〇同三巳年閏五月十日
有章院殿御筆御色紙拝領〇同四午年
十二月廿二日[illegible]
令[illegible]〇享保元申年五月十六日
[illegible]〇同五子年十一月廿四日死〇拾七
歳[illegible]

政方　森川源太郎

享保元申年十二月廿九日初而御目見同九辰年十月九日御書院番〇同十一午年三月小十人[illegible]〇同十三申年九月病免〇同十八丑年九月廿日死　年廿一　宗林同寺葬

政明　実ハ[illegible]英盛二男　森川金右衛門　[illegible]

享保十八丑年十二月廿六日本丸御書院番〇元文三午年三月廿日西丸書院番〇延享三寅年十二月廿八日死　年三十七　宗林同寺葬

政光　森川備之助

延享三寅年十二月三日初而御目見〇宝暦九卯年二月廿八日死　部屋住　年廿六　宗林同寺葬

改之　実弟 森川與右衛門 助九郎

実森川与次右衛門改昭二男

宝暦六丙子年十二月六日家督○同
同年十月廿七日書院番○安永五
申年四月日光御用ニ依テ○天
明元丑年十二月十日病死○同六
午年二月十六日死去年五十二条同寺
葬

改寧　森川吉平郎

高三百俵

天明六午年六月廿七日家督○同七
未年八月十一日書院番○寛政十
一未年正月廿八日御免差扣入廿
六日より二月四日迄差扣之

藤原姓

喜多川　高三百俵
家紋　丸ニ雁金
丸ノ内四ツ目結

喜多川日向守定宗五代喜多川惣兵衛

照方三男

信宗　喜多川次郎兵衛

寛文九酉年十二月跡目百五拾石

○延宝二寅年十二月十二日御納戸衆

天和三亥年九月八日死 御当家浄念
寺葬

信貞

実大屋又右衛門三男
森川次郎兵衛

貞享元子年七月廿六日桜田御殿
御書院番○同二寅年十二月十日死
同寺葬

信之

実大沢四郎左衛門二男
森川権六郎

貞享三寅年十二月廿二日桜田
御殿ゟ奉公被召出○同四卯年
二月九日御小姓組○元禄五申年
六月廿九日御加増○同十一寅年
十月廿六日御膳奉行○宝永元申年
十二月廿五日西丸へ御供ニて御膳奉行
○正徳二辰年十月十四日大喪の時

落髪休哲○同二巳年四月廿
五日采地没収之○同四未年十二月
十八日加役百俵○享保元申年四月
大番の後小普請○同十巳年十月十
四日死六十七葬同寺葬

信英　[illegible]二男
森川六七郎

寶永四亥年二月廿五日聟養子
○同六丑年四月十八日初御目見○享保
十巳年十二月廿二日家督○同十五戌
年五月廿六日大番○寶暦四戌年
五月廿六日大番組頭○同十辰年
六月十二日死六十[illegible]同寺葬

信賢　森川権六郎　求馬
享保十八丑年二月十五日初御目見○同十
辰年十一月十日家督○同十一巳年
十二月十六日大番○安永三午年

三月廿六日死去跡式不被仰付

信彦　森川金七郎　高三百俵

明和六丑年九月跡目初御目見 安永
三午年十二月六日家督○同年十
二月十四日大番○同天明二寅年六月
七日大番組頭○天明七未年二条
在番中
楚重 田沼主殿頭殿より被援

猶同○同八申年五月廿日ヨリ大火之節
時ニ条御城内御橋其外御消防方精
相勤申候ニ付御褒美被下置
候ニ三未年十月従前ニ被為兼
ニ候組頭被免寄合被仰付ニ而
より小普請入遠慮○同子年
正月十一日赦免

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan